

Greet the world

～そして世界へ～

ニュージーランド。遠く南半球の国。この滞在期間は、関わった人すべてが、英語との格闘はもちろのこと、互いの理解を深め、心と文化の交流を図った貴重な時間となりました。彼らがとても日本に好意的で、日本人に近い国民性を持っていることを多くの人々が感じたと思います。例えば脱いだ靴をそろえて向きを変える…そんなところに、とても親近感を覚えました。世界共通語の英語を押し通すのではなく、一生懸命日本語を話そうとする姿が、印象に残っています。大切なのはお互いを理解しようとする気持ち。例え言葉は通じなくても心は通い合うのです。彼らの紳士的で友好的な振る舞いが、ニュージーランドと日本との距離を近づけたのではないのでしょうか。

また、この訪問は相手の国を知ることで自分の国や町を見詰め直す、とても良い機会となりました。彼らとの大きな違いは、“故郷”への誇り。私たちは、果たしてどれだけ日本という国や多古という町を知っているのでしょうか？ 誇りに思っているのでしょうか？ こんな小さな町に誇れるものなんて…そんなことはありません。等身大の自分に自信をもって、飛び出してみよう!! 勇気を持って一歩を踏み出せば、新しい世界との出会いが待っているのです。



バスケットでつながる絆

高岡一誠さん(多古中2年)



ホームステイを受け入れることになって、英語も話せないし、正直憂うつでした。初めての夜も僕は塾で家にいなくて、次の日一緒に登校する時も、なかなか彼らと打ち解けることができませんでした。でも、僕の所属するバスケット部との交流試合の後は、何だかとても仲良くなれた気がして…。クライフのダンクシユートには、みんな興奮しました。それからは、知っている単語を並べて会話も何とかなるようになり、僕がわからないような顔をすると、彼らは簡単な言葉に置き換えて話してくれました。僕の部活の友人も、パーベキューを一緒にしたり、先住民の踊りを教えてもらったり、とても仲良くなりました。そんな友人たちと、絶対にニュージーランドに行こうと決めています。

ホームステイを受け入れることになって、英語も話せないし、正直憂うつでした。初めての夜も僕は塾で家にいなくて、次の日一緒に登校する時も、なかなか彼らと打ち解けることができませんでした。でも、僕の所属するバスケット部との交流試合の後は、何だかとても仲良くなれた気がして…。クライフのダンクシユートには、みんな興奮しました。それからは、知っている単語を並べて会話も何とかなるようになり、僕がわからないような顔をすると、彼らは簡単な言葉に置き換えて話してくれました。僕の部活の友人も、パーベキューを一緒にしたり、先住民の踊りを教えてもらったり、とても仲良くなりました。そんな友人たちと、絶対にニュージーランドに行こうと決めています。

親子4人を受け入れてー

大木さんファミリー(宮)



葉摘さん(多古中3年)「ニュージーランドに行きたいという気持ちが、ずっと強くなりました。外国人に抵抗があると言っていたみんなも、実際に会ったら盛り上がり…。将来は通訳になりたいなあ」

- 千代さん(祖母)「言葉が通じなかったらどうしようかと…。でも、ソロモンさん夫婦は日本語を話せたのでひと安心。はしを使うのも上手でしたね。おかげでいい経験ができました」
- 啓治さん(父)「日本酒好きのお父さんとは、違和感なくお酒を一。忙しいスケジュールで、みんな最後のころは疲れていた様子。もう少しゆっくりするために、ホームステイ先での自由行動などを加えるのもいいかもしれませんね」
- 和美さん(母)「どんな人が来るか楽しみでした。最初の晩の料理は迷った末、家で揚げた天ぷらなどを用意。朝食もパンじゃなく白いご飯で、海苔とふりかけが子供たちに大好評!? 普段できない経験をした5日間でした」

母国との交流をいつまでも

マーガレット・アリソン・パール・マクガリーさん(多古中外国語指導助手)



フィヨードランドカレッジの訪問は、多古町だけでなくニュージーランドの学生にも、前向きな影響を及ぼしたと感じています。みんながとても充実した時を多古町、日本で過ごしました。また、このような交流がこれからも続いて欲しいと願っていますし、私も、今回の経験から学ぶべきことがたくさんあります。協力してくれた皆さん、本当にありがとうございます。

今、ニュージーランドの学生たちは、多古中の生徒がティアナウに訪れるための計画を熱心に考えていて、彼らにはとても素晴らしいアイデアがたくさんあります。多古中の生徒たちは、ニュージーランドでもとても素敵な時間を過ごすことができます!!

interview



部活動交流ではソフトボールで女の対決
試合の後は握手の嵐!! スポーツに国境はありません



道セミナーでは日本の伝統文化を体験
「トン・トン・トン」
手拍子に合わせて、上手く叩けたかな?

4月11日(水)

今日は一日ディスプレイランド。あいにくの天気を迎えに行く二人が震えながら「超寒いー」と駆け寄ってきました。今まで「日本は暑い!!」と言っていたので、よほど寒かったのでしょうか。体を温めることもできるので、家に着いたらラーメンを作っていました。「おいしい!!」とスープまで飲み干しました。体も温かくなったと言ってくれてよかったです。疲れているだろうと思いきや、今夜もノリノリで娘二人と話や歌が尽きず、私は先に眠ってしまいました。

4月12日(木)

疲れが出てきたのか、約束の時間よりも5分遅く起きてきました。朝食はいつも通り食べて学校へGO!! 今夜は送別会です。早いな。自宅へ戻り最後の団らん。マークは元気があがるが、グレイムは疲れがピークなのか目がうつろ。それでも楽しく、とっておきのタラバガニとケーキを食べました。娘たちも短い期間でしたが、随分英語がしゃべれるようになり、子供って覚えるのが早いなと思っていました。それに比べて私は英語が全くしゃべれないし、日本語までどことなく変に…。息子の翔平は新中学生となり気疲れなのか自宅へ帰ると食事以外はひたすら爆睡で、ほとんど交流無し。マークが「翔平のマネ」といい、眠っているポーズをしていました。彼らはまた12月に日本に来ることになっているらしく、「また多古町、加藤ファミリーに来てね!!」と交渉して今夜は就寝。

4月13日(金)

集合時間が早くて、慌ただしく最後の食事。「ミプラへ向かう車内は、何となく静かで…。「お別れ」したくない気持ちがそうさせたんだと思います。バスに乗り込む準備をする二人を見ていたら、自然と涙が出てきました。かわいい息子たちが去ってしまう寂しさ…。短い期間だったけれど、そう思わせてくれるマークとグレイムでした。私が一番心に残っていることは、マークもグレイムも、迎えに来ている私を見つけると、手を大きく振りながら最高の笑顔で駆け寄ってきてくれることでした。「今日はどうだった?」と尋ねると、嬉しそうに覚えてこの日本語で話してくれた二人の笑顔は、最高のプレゼントでした。



いよいよお別れの朝
「泣かないで」と優しく肩を抱く…
自然と涙がこぼれます



ホストファミリー以外の友達もたくさん
駆け付けた送別会

コオリー・ワイウリーさん
「ホストファミリーの皆さん、本当にありがと。一誠は僕のいい弟になりました。バスケット部の新しい友達、ありがと!!」

クライフ・コックスさん
「多古町の人みんな温かくて親切でした。新しい日本の家族と貴重な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。バスケットの試合はとても楽しかったです!」